

横浜キネマ倶楽部
第43号 会報
2016年6月18日発行

第43回上映会

春よこい

(2015年 / 日本 / カラー / 65分 / ブルーレイ上映)



©2015 春よこい製作委員会

2016年6月18日(土)
[上映時間] ①11:00 ②13:00 ③14:40
[会場] 鶴見公会堂

安孫子亘監督
トーク
各上映回の終了後

☆ロビー交流会:12:30-12:50



©2015 春よこい製作委員会



(ドキュメンタリー映画)
熊と 蜂蜜と アキオさん

春よこい

舞台は福島県金山町。

2011年3月。東日本大震災・福島第一原発事故による放射能は、130km離れた金山町の自然にも降り注いだ。

野生動物をはじめ、町の観光資源であるヒメマスまでもが汚染された。

金山町は震災のすぐ後にも、新潟・福島豪雨水害により甚大な被害を受けていた。

—只見川氾濫。ダム土砂堆積。鉄橋崩落。只見線不通。
高齢化が進む町民にとって過酷すぎる状況である。

マタギの生業は熊を撃つことだけではない。
山の神を敬い、おきてに従い熊を撃つ。
そして、人と自然が共に暮らす術をマタギは教えてくれる。
福島県奥会津に伝わるマタギの精神を、猪俣昭夫は子どもたちへ伝えている。

原発事故以来、世界中が自然との共生へと歩み始めた。
自然とは何か。
猪俣昭夫は、黙々と自然の大切さを説いた。
やがて全てが戻る日を願い、金山の急峻な山を見上げた。

(映画『春よこい』公式サイト)

【安孫子亘(あびこ わたる)監督プロフィール】



1959年、北海道小樽生まれ。

1995年、アフリカケニアに移住。野生動物の映像制作に取り組む。

1999年、日本初の「映像ギャラリー ミルフォニー」を栃木県那須高原にオープン。

「日本の四季と動物たち」でキャラクシー賞選奨、山形国際ドキュメンタリー映画祭2011コミュニティシネマ賞受賞。主な長編ドキュメンタリー映画に「やるべえや」(2011年)、「生きてこそ」(2013年)がある。



出演:猪俣昭夫 福島県金山町の皆さん

音楽:東出五国 / 編曲:野崎洋一 秦野 萌 / 音楽監修:秦野 萌

ナレーション:山本紀彦

録音・MAスタジオ:アフタービート 沼尻一男 本橋大輔

編集スタジオ:会津ジイゴ坂学舎 / 字幕翻訳:シング麻美 / 題字:千葉清藍

ポスターデザイン:瀬川晶 福島大学芸術による地域創造研究所

プロデューサー:ナオミ / 企画・製作・配給:株式会社ミルインターナショナル

..... アンケート集計結果

< 2016. 3. 5 第42回上映会 >

来場者数 209名
アンケート総数 69枚(回答率 33.0%)

NO

<作品についての評価・感想>

「とても良かった」35枚 50.7%

- はじめて知りました。何て感動的なとりくみがあった!
- しずかななかにおこった事を何も知らなかった私にはしょうげきでした。
- 同じ状況と思われる日本も若者が動き始めていますが、できるだけ一緒に立憲主義守りたいです。
- 軍事独裁政権にNOを突きつけ勝利した当時のチリ。日本にもと、重ねて観ました。しかし日本の歴史現状とメディアの質を考えるとむずかしいだろうと思います。
- これからの選挙にも参考になりそう。
- チリの軍政下の厳しい状況と、それを変えるにはポジティブな主張のほうが訴えることがよく伝わってきた。日本の現状を考える上でも参考になった。
- 勇気をもって声をあげることの大切さ、ユーモアをもって。まだ日本は声をあげられる。だからそんたくしないで声をあげましょう。特にメディアがんばれ。
- チリの人たちの民主化への熱望と未来志向のたかひに感動した。
- ピノチェト政権とアベ政権、今の状況と重なることが多く、やっぱり日本の今は異常なのだと言え確認しました。
- J&Bで一度見ましたが、2回めで更によくわかりました。
- 「NO」とてもよかったです。社会的な映画に興味がありましたもので、出会えてうれしいです。
- 今の日本の現状と重なる所が多々あった。NOと言えない人、関心のない人にどう接しNOと言える状況をつくるか参考になった。



- おもしろくて、ハラハラドキドキで、すばらしい作品でした。1回目で寝てしまったのですが、伊藤氏の話聞いてから2回目を見られたのでより楽しめました。入れ替えなしで2回上映してくださり感謝です。
- 実はこの映画を観るのは3回目ですが、伊藤さんの講演が聞きたくて来ました。お話の後、映画で観たので、軍政権下でも、表面上は民衆主義であることを主張するということがよくわかり、より内容が深く理解できました。
- CMの効果の大きい事もりました。政府と反政府との攻防の凄まじさに?えました。
- 岩波ホールで、真珠の涙(?だったかなーチリの話)を見て、この映画が見られてとても良かったです。

「良かった」28枚 40.6%

- 都内でも上映されるといいと思いました。
- チリの民主化へ向けて、暴力でなく15分の映像でいかに訴えていくか、その過程がおもしろかった。脅しや暴力は人の心をつかまないと。ユーモアも含めて人の心に沁み入る手法の駆使。なかなかでした。

- 事前に見る機会があり、今回で3回目でしたが、事実をうまく映像化したと思いました。
- 「サンチャゴに雨が降る」を思い出した。118分は長すぎる。せめて90?100分に！伊藤氏より実話を聞いて胸に熱いものがこみ上げてきた！
- 前から観たかった映画でしたけど、観ることができなかつたので今回観ることができてよかったです。広告のもつ力がこんなにも強いものとは驚きました。
- 画像の質が悪かったのが残念。
- チリの映画は初めてみましたが、内容がわかりやすかった。
- 映画を見ながら私は、日本の近未来ではないかと、また、一方で、日本の最近の状況を思い、何らチリと日本の政府の状況は似かよっていると感じざるを得なかつた。日の丸、君が代、国旗・国歌法制定の頃から”事”は始まって、序々にいたのだ。機密保護法しかり、戦争法採択の経緯は一言で言えば、デタラメで、市民による教科書展示での意見、全く審理会で各担当に上げておらず、一番の問題は、新聞報道でもあった様に、育鵬社版の教科書評価の前回マイナス点を全て削除した上で評価し、教育委員の同数判点を座長が権げんで育鵬社版に決めさせるなどと、、、、横浜市長は自民党にこうした経緯をたどることを暗黙に支持していたこと（否定しなかつた）。。。日本全国に存在する”日本会議”（神社庁、宗教団体が会員の8割、それに経済界、国会議員）の存在に国民は、メディアはもっともっと注力する必要がある。憲法、放送法をねじ曲げて解釈し、全く平気な右急せん回の連中を様々に食い止める努力は、今こそ必要だと思うが、、、、一般の人々には、私に言わせれば、表面的にしか問題を見ないので、誤った評価を持っている人が多いことに気付く。チリのこの映画の人々の見習うべき所は多いと思った。アフガニスタン、イラク戦争と、かつてアメリカシンパのビンラディンを生み、イラクより米兵撤退後??を生み出した米なんぞに日本は全く追従する根拠はない！不平等な日米ガイドライン、日米安保条約を独・伊並に改定させる必要がある。
- 急用ができて来れなくなった友人からチケットをもらって見に来た。自分では買わないだろう異色の映画だったが、いつの時代でも民衆は独裁をやめて、自由を求めるものだと感じた。

- どのようにして軍事独裁になったか知りたかつた。
- 日本語の文字が読み憎かつたし、速度が早く追いかけるのが大変だった。内容がわかっていたので理解は出来たが。

「あまり良くなかつた」1枚 1.4%

「良くなかつた」1枚 1.4%

「無印」4枚 5.9%

- 若い人に観てもらいたい。

〈伊藤千尋氏講演についての感想〉

- 実際に現地での取材をさせていただきに、そして、何よりも民衆の立場に立つ伊藤さんのお話は確信と展望と勇気が持てました。
- チリの闘いの話がきけてよかつた。日本の今の政治状況を脱するためには私たちはまだまだ甘い。
- ゆうきづけられました。
- 今の政権に対して NO をつきつけたい。チリの民主化も学び私達も頑張らなければ。
- 現場で体験したお話を聞く事が出来大変良かつた。
- チリで身をもって体験した市民革命の様子を具体的に話してくださり、軍政権に見つからないように悟られないように立ち上がっていく庶民たちの姿に心が震えました。
- 映画の当時の現地の状況をよく話してもらい、本当の状況を知ることができました。
- リアルな話でとても面白かつたと思います。
- 「日本がいま求められていることは。。。。」と言うのが印象に残った。
- 憲法を生かす行動を伊藤さんに背中を押される思いです。
- 力のこもつた、当時の状況を話だった。元気が出た。
- アムネスティ・インターナショナルのイベントで、20年以上前だと思ふが講演していただいた事を思い出した。
- チリの軍政当初の状況とそれでも諦めなかつた人々の話を聞いて、主張を通す、通し続けることが世界を変えることを学びました。ありがとうございました。

- もともと伊藤さんの大ファン。取材に基づいた実のある話にユーモアが入っていて最高です。新聞でも拝見していました。
- あつい講演でした。その時のその場の空気が伝わってきて貴重な話がきけてよかったです。
- 軍事政権は見栄張り！
- この映画の話をするのに最適の人だった。感動的だった。
- 現地に行き目で耳で確認された方の話は、生々しく迫力がありませんでした。
- 実際の体験を聞くことができ、貴重だと思います。
- チリというなじみのない国で、国民が民主主義の為に命をかけた、又はできることを何かしたいという話にとっても力をもらった。
- チリの当時のことは、ほとんどが知らなかったが、伊藤氏の話し方が上手でひきこまれた。世の中には無名でりっぱな人がいることを再確認できた。日本の現実を考えた。
- 1984年9月4日の様子がなまなましく実感できました。人は、どんな圧政にもめげず、立ちあがれるということ。
- 共産党がオールジャパンに参集しようとしているのに、足をひっぱる民主党の人たち。

- 情熱あふれる論法で「日本人よしっかりせよ！！」とおしかりをうけ、「憲法」を使って民主主義を確立すべく再行動を始めたい。今日日本の軍国化への施策は止めなければならない。
- この講演を聞いただけでも来て良かったです。
- 反対集会に参加するという覚悟が持てないという人も、なべたきや、第9でロズさむなど意思表示はしていたという話がとてもよかったです。今、日本で起きている、立憲主義回復のためのたたかいにも生かしたいと思いました。
- 若い人に聞いてもらいたい。
- 知らなかった内容をとてもわかりやすく話してくださったので良かったです。
- パワーを頂けるお話でした。
- 同じ山口出身、同じ高校出身でした。(偶然)。帰りに一言あいさつできました。
- 今の日本の状況もはね返せると勇気がわきました。
- できる事から社会参加してゆきたいと思います。
- たくさん本をお書きになっていますが、講演会のはじめてでした。わかりやすい語り口でした。

〈これまでの上映作品〉全46回 (特別上映会4回含む)

美しい夏キリシマ/パッチギ！/カーテンコール/二人日和/ゆるる/
 トリノ、24時からの恋人たち/長い散歩/天空の草原のナンサ/
 イノセント・ボイス—12歳の戦場—/モーターサイクル・ダイアリーズ/
 恋するトマト/シッコ/歓喜の歌/赤い風船・白い馬/三本木農業高校、馬術部/
 ラストゲーム～最後の早慶戦/マリア・カラスの真実/ディア・ドクター/扉をたたく人/
 縞模様のパジャマの少年/春との旅/小さな村の小さなダンサー/冬の小鳥/ホームカミング/
 ミツバチの羽音と地球の回転/デザートフラワー/ハーモニー心をつなぐ歌/
 ドーバーばばあ織姫たちの挑戦/エンディングノート/旅芸人の記録/トガニ/
 月世界旅行・メリエスの素晴らしき映画魔術/かぞくのくに/警察日記/名もなく貧しく美しく/
 よみがえりのレシピ/きっと、うまくいく/日本の悲劇/ペコロスの母に会いに行く/息子/
 ハンナ・アーレント/標的の村/救いたい/野のななのか/ぼくたちの家族/NO



<<< 前売り券購入方法についてのお知らせ >>>

[ゆうちょ振込による前売り購入]

各上映会3日前まで、ゆうちょ口座にて前売りを受付いたします。
前売り料金(1,000円)を以下の口座へご入金ください。
チケットは、当日受付にてお渡しいたします。

ゆうちょ銀行総合口座 記号 10200 番号 22932931
加入者名:ヨコハマキネマクラブ

[チケットぴあによる前売り購入]

Pコードについてはチラシ、ホームページにてお知らせします。

「セブン-イレブン」「サークルK・サンクス」でチケットの発券ができます。

[プレイガイドによる前売り購入]

〈前売り券取り扱い所〉

有隣堂伊勢佐木町本店	TEL 045-261-1231
高橋書店(元町)	TEL 045-664-7371
シネマジック&ベティ	TEL 045-243-9800
横浜シネマリン	TEL 045-341-3180
いづみ書房	TEL 045-241-1104

横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう!

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一步良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

次回上映会のお知らせ

2016年8月20日(土)

上映時間 ①11:00～

②14:40～

塚本晋也監督講演：12:40～13:40



横浜西公会堂 地図

〔入場料〕

前売り1,000円 当日1,300円

障がい者 1,000円 (介護者1名無料)

〔会場〕

横浜西公会堂 045-583-1353

横浜駅徒歩10分、相鉄線平沼駅徒歩8分、

岡野町バス停徒歩5分)

上映作品

『野火』

ストーリー：

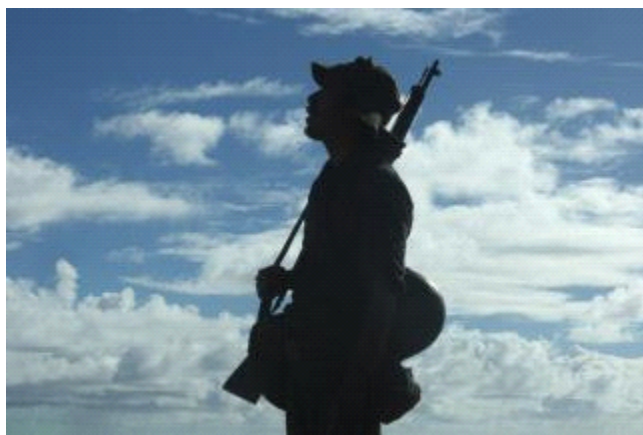
第二次世界大戦末期のフィリピン・レイテ島。

日本軍の敗戦が色濃くなった中、田村一等兵(塚本晋也)は結核を患い、部隊を追い出されて野戦病院行きを余儀なくされる。しかし負傷兵だらけで食料も困窮している最中、少ない食料しか持ち合

わせていない田村は早々に追い出され、ふたたび戻った部隊からも入隊を拒否される。そして果てしない原野を彷徨うことになるのだった。

空腹と孤独、そして容赦なく照りつける太陽の熱さと戦いながら、田村が見たものは・・・

(出典：映画チラシ)



製作・配給／海獣シアター 2014年／日本映画／カラー／87分

(C)SHINYA TSUKAMOTO / KAIJYU THEATER



横浜キネマ倶楽部会報

発行：横浜キネマ倶楽部

〒231-0012 横浜市中区相生町1の15
第2東商ビル4階-C 労働市民法律事務所
気付

TEL:080-8118-8502 (10時～18時)

Eメール:yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp

HPアドレス:http://ykc.jimdo.com